

情報関連企業による 「沖縄力発見ツアー2014」を実施



河合局長によるプレゼン風景



ワーキング・ディナー

沖縄力発見ツアーの初日（29日）は、県外から参加された19社の幹部等の方々と、後藤田内閣府副大臣、川上沖縄県副知事、県内経済界関係者等の方々との間でワーキング・ディナーを実施しました。



ワーキング・ディナーにおける意見交換

ワーキング・ディナーの冒頭、後藤田副大臣から、沖縄は、成長著しいアジアの中心に位置する「地の利」など、無限の可能性を秘めた地域であり、また、今年度からは、新たな特区・地域制度が施行されており、このツアードミッションに、情報関連企業と沖縄県の産業界とが互いに力を合わせ、沖縄への投資



下地沖縄県商工労働部長によるプレゼン風景

内閣府は、5月29日（木）～5月30日（金）、県外の情報関連企業の幹部等の方々に沖縄のポテンシャル（沖縄力）や独自の特区・地域制度等のビジネス環境を見ていただく、「沖縄力発見ツアー2014」を実施しました。ツアーでは、沖縄のITインフラ、情報関連企業、沖縄科学技術大学院大学の視察を行うとともに、これからの沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興について、地元の情報関連企業との意見交換等も行っていただきました。



促進や新たな産業の創出・振興がより一層進むことを期待したい、との挨拶がありました。

また、意見交換に先立つて、河合沖縄総合事務局長から「成長するアジアの中心に位置する沖縄」について、また、下地沖縄県商工労働部長から「沖縄振興税制と沖縄県の支援策」について、それぞれ説明がありました。

● 観察



沖縄IT津梁パーク内の説明風景

ワークス、クオリサイトテクノロジー株式会社、名護イーテクノロジー株式会社）をそれぞれ視察しました。

● 県内情報関連企業との意見交換

沖縄IT津梁パークにおいては、県内の情報関連企業との意見交換を行いました。

県外の情報関連企業からは、「ベトナムでのオフショア開発を行っており、ニアショア開発やデータベース活用といった面で沖縄と競合する面があるが、ベトナムとはコンペティター（競争相手）とパートナーのどちらになるとを考えられるか。」「事業のスピードや人材育成までのスピードは本土（東京）と違いはあるのか。」との意見がある

一方、県内の情報関連企業からは、「ベトナムとは機能分担することでパートナーになれる。」「沖縄はコミュニケーションが強いため、人材育成には良い環境にある。」との意見がありました。

● ツアー参加者からの声

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアードで頂いた様々な方々のアドバイス、お声を今後の取組にいかしていきたいと考えています。

各種支援策はあるものの、統合的な戦略や推進するための戦術が十分でないと感じられた。データセンターや海底ケーブルを使って力を付けてきたアジアの消費者に、ネットショッピングやゲームなどを提供することで大きく飛躍できるのではないか。といった意見がありました。



沖縄科学技術大学院大学キャンパスツアー



県内情報関連企業との意見交換

● 沖縄科学技術大学院大学

沖縄科学技術大学院大学においては、同大学の概要説明のほか、オープンエネルギーシステムやITセクションの業務説明に加え、同大学内のキャンパスツアーを行いました。

・ 国はもとより、沖縄県や関係自治体の企業誘致の積極性とインフラ整備について感心させられた。また、若い世代の人材育成にも期待がもてた。